

京都市南区基本計画策定委員会第4回会議 議事録

日 時：令和2年11月27日（金）10：00～11：00

場 所：南区役所A・B会議室

出席者：

氏 名	所 属	備 考
天野 広一	南区自治連合会（唐橋学区（中学区））、南区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会、南少年補導委員会	委員長
田中 一明	南区自治連合会（九条学区（東学区））、南区社会福祉協議会	
野村 良博	南区自治連合会（吉祥院学区（西学区））、南区共同募金会	
山田 信之	日本新薬株式会社総務部渉外担当部長（南区まちづくり推進会議）	
山田 正志	京都中小企業家同友会南支部	
矢田貝 宏美	市民公募委員	
植松 明彦	市民公募委員	欠席
小野 恭裕	京都市立塔南高等学校校長	
石原 凌河	龍谷大学政策学部准教授	

1 開 会

2 挨 拶

委員長 天野 広一
 南区長 古川 真文

3 議 題

- (1) 資料説明
- (2) 意見交換
- (3) 事務連絡

(2) 意見交換

古川区長

新型コロナウイルス感染症の影響で、人と人が集まるということが難しい状況が続いている中で、キーワードは、「ICT」である。国では、デジタル化を推進する流れになっているため ICT、デジタル化は避けて通れない。

一方で、zoom など有意義なツールではあるが、デジタル化に馴染めない方への対応を考えていく必要がある。そこは、みなみ力が生かせるのではないかな。

石原委員

行政の ICT 化は遅れている。特に京都市は遅れている印象がある。行政が動かないことには、波及しないのではないかな。ほかの市では、委員会や打合せにおいても zoom を活用している。大学でも、授業のオンライン配信など情報化の対応を進めている。

文科省からは、教育現場での ICT 化の推進、タブレットの配備などを盛り込んだ構想が打ち出されている。次期基本計画の対象期間を見越すと、まちづくりの担い手となる次世代の子ども達は ICT が一般化しているため、ICT 化は避けて通れない。

また、困難によってできた新たな可能性をポジティブに捉えて計画の中に盛り込めると良い。

小野委員

本校はインターネット環境がない生徒もいるが、貸出用のノートパソコンを用意することができた。多くの生徒が、日頃からデジタル機器を利用しているため、今の状況を逆手にとり、取り組みを前倒しして来年度からパソコンを一人一台導入することを検討している。

高校でも zoom を使った会議が増えてきているが、もどかしい部分もある。面と向かって対面での場面とオンラインの活用との使い分けが必要にはなるが、ICT 化は計画の中に盛り込んで欲しい。また、多様化している中で、誰一人取り残さない視点も重要である。

矢田貝委員

子どもの学校行事について、コロナに伴い、長期宿泊体験は中止になった。修学旅行は延期になっているが、第3波により今後どうなっていくのかが分からない状況である。運動会もなく、授業参観は教室の外から見ていたため、子どもの様子が見えづらかった。子どもは、通学はできているが、不便な環境が続いている。

図書館に行っても本の貸し出しは、一人一冊までという制限になっているため、電子図書館のようなものがあれば良い。

バーチャル京都ジョブ博という就活生向けの取組がある。小学生向けにも、ものづくり体験などバーチャルでできると楽しいので、取り入れて欲しい。学校と企業が提携して取り組めるようなものを検討して欲しい。

山田（信）委員

弊社の状況としては、4月以降テレワークを導入し、本社地区としては半数程度が出勤しており、私は週のうち2日は在宅勤務としている。

社用パソコンを自宅に持ち帰りオンライン対応をしているが、テレワークになり、世間話等の無駄が省けた一方で、遊び（余裕・ふれあい）の部分がなくなったように感じる。

テレワークに伴い、在宅時間が増え、町内の声はより聞こえるようになり、近隣住民等との会話も増えた。一斉清掃など、これまで参加されなかった（できなかった）住民も参加されるようになりふれあう時間が生じている。

これから ICT も加速していくと思うが、遊び（余裕・ふれあい）の部分をどう作っていくのか活用していくのか、そこが地域に求められているように思う。

山田（正）委員

ものづくりの会社なのでテレワークができない環境にある。

中小企業家同友会などの集まりにおいても zoom が一般的になっているため、時間的に助かっている。

高齢者など ICT 化に馴染めない方もいるが、みなみ力、コミュニティの力で乗り切れないか。地域の子供も達が、高齢者に教えに行くといったふれあいができればいいのではないか。

田中委員

子どもや孫が遠方に住んでおり直接会いに行くことができないため、zoom が活用できて良かった。一方で、同年代の中には ICT や zoom に馴染めない方が多くいるため、取り残される人がいないように考えていく必要がある。ICT に馴染めない高齢者の手助けができるような方策を考えて欲しい。

野村委員

コロナに伴い地域の会議が開催できなくなり、役員などの引き継ぎが大変だった。また、地域の運動会、防災訓練、地藏盆などが中止となり、地域住民との会話ができなくなった。

ICT に弱い高齢者も多い。町内会の中に ICT に詳しい方がいるため、その方に情報をもらっているが、情報が取りづらくなっている。

食事会を楽しみにしている高齢者もいるが、コロナ禍でどこまでやっていいのか、その点を区役所から情報が欲しい。

天野委員長

民生児童委員の活動の中で、クラスターが発生した学校の校長先生を招いて、勉強会を開催した。

地域内の様々な行事が中止になっているが、何ができて、何ができないのかを地域で判断

しなければならない状況になっている。お正月の行事は開催して欲しいという声もあるが、誰が責任をとるのかという話になる。

石原委員

本学は十分な感染予防対策を講じていたが、クラスターを発生させてしまった。どこで発生するかが分からない状況であるものの、その後、お叱りの電話を多く頂いたように、感染者に対する中傷や差別につながることを実感した。計画の中に感染によって生まれる差別の問題を盛り込んでどうか。

何がなんでも zoom や Skype などのツールを導入しなければならない訳ではなく、高齢者と若者をつなぐツールの一つとしては電話や FAX でもいいのではないかな。様々なツールを活用しながら、コミュニケーション機会を増やせばいいのではないかな。

天野委員長

学区内の学校でクラスターが発生してから、その地域を通るなという声もあった。感染者が発生しても中傷や差別を生まないようにどのようにカバーしていくのか、考えなければならない。

田中委員

次期基本計画にコロナをどのように位置付けるか。ICT 化をはじめ、コロナから学んだことを盛り込めないか。コロナで得た教訓を計画に位置付けるということで良いのか。

事務局

5 年後、10 年後は社会のつながり方も大きく変化してくるのではないかと考えている。

デジタル弱者への対策、必要なところに必要な情報を届ける、感染症に対する差別などの項目は、計画の中に盛り込む。

天野委員長

コロナに対する記述は、健やかに暮らせるまちに盛り込むのか、いのちと暮らしを守るまちに盛り込むのか、事務局で対応を検討頂きたい。

古川区長

石原委員のご指摘部分はぜひは盛り込みたい。また、コロナから学んだポジティブな視点を盛り込みたい。

天野委員長

コロナ騒動で何を残してくれたのかを考えた方が良い。コロナを契機に差別の問題も改

めて浮かび上がった。

防災については、避難所の環境もコロナ対応が求められる。

山田（正）委員

パブリックコメントに関して、意見がどのように反映されたのか開示して欲しい。

事務局

本市ホームページで、意見の内容とその対応を公表することとしている。

4 閉 会